

■早稲田大学校友会・日台稲門会 2024年秋季講演会

(10月20日 早稲田キャンパス7号館307教室にて)

※以下の講演内容の概要の文責は日台稲門会幹事会

●多言語社会台湾とその人々

講師：鈴木武生（すずき・たけお）

早稲田大学法学部・跡見女子大学文学部＝非常勤講師

(株)アジアユーロ言語研究所 代表取締役

東京大学総合文化研究科言語情報博士課程修了（言語学博士）

【00】ご挨拶

★みなさま、本日はお越しいただきありがとうございます。

*感謝您今日的蒞臨。(國語／中国語)

*Hoan-gêng kok-ūi kin-á-jit ê kong-lîm. (台湾語)

(歡迎各位今仔日兮光臨。)

※上記「kin-á-jit」の後ろの「i」は点ではなく縦棒の付いたもの

*Minkahol=simu sawni ru mahuway=simu kuwara (アタヤル語)

※「アタヤル語」は、台湾「原住民族（現地での呼称）」のタイヤル族の言語で、タイヤル語とも言います。

【01】台湾との出会い

★なんですか？その言葉

学生時代や社会人になってすぐの若いころ、台湾人から聞いた言葉は、大学で学習した中国語とは、まったく違う音でした。台湾では、中国語とは別の言語も話されていることに気づかされました。それは「台湾語」と呼ばれるものでした。

私は学部は明治大学で学び、第二外国語は中国語を履修しました。その中国語学科長は台湾出身の王育徳先生でした。

残念ながら私は王先生の講義は受けませんでした。台湾に「台湾語」があることを知ってから、王先生の経歴を調べてみると、先生は台湾語の研究者および教育者でした。

私は、台湾語の概要を知り、台湾語への関心が高まりました。

【02】台湾初訪問

★驚いたもの

80年代に初めて台湾を訪れると、そこは、なんともカオスな世界。また、日本語を流暢に話す中年以上の人たちがいたことも驚きでした。当時の日本では、インターネットがないのはもちろん、台湾に関する書籍や雑誌の記事もきわめて少なく、台湾情報を簡単に知ることはできませんでした。それもあって、私は、台湾についてほとんど知らなかったのです。そして台湾への関心は高まるばかりでした。

【03】なんで台湾語なんか勉強したいの？

台湾への関心が高まると、台湾語を学びたいと思ったのですが、それを台湾人に言うと、「なんで台湾語なんか勉強したいの？」といった反応をするのに私は驚きました。

「台湾語は（独自の）文字がない」などと、ネガティブな反応ばかり。そして、台湾語のテキストブックを台湾の書店で見つけましたし、街を歩けば台湾語を耳にすることができたというものの、テレビなどでは台湾語にふれる機会がないことを不思議に思ったものでした。

そして90年代に入ってからのこと、あの彭明敏氏の自伝である『自由的滋味』を翻訳する機会がありました。（翻訳は、『自由台湾への道』）。そうしたことから、二二八事件など、台湾の歴史についてもある程度知ることになりました。

そうしたことから強く感じたことは、「言葉はアイデンティティーと密接に結びついている」。ということは、国民のアイデンティティーを変えたければ、言語を変えてしまうのが手っ取り早い、ということにもなります。

台湾のアイデンティティーとは？ 台湾の言語とは？ と考えざるを得ませんでした。

【04】衝撃のクアドリリンガル文化

私は台湾語の学習を始め、1990年代、池袋の台湾教会で牧師の林道玉栄先生が台湾語教室を開いていたので、台湾語の学習を始めました。

Khi-moo spring giang! (めちゃくちゃ楽しい！)

*Khi-moo ⇒ 日本語の「気持ち」から

*spring ⇒ 英語の「春」または「ばね」

*giang ⇒ 台湾語で電話のベルなどが激しく鳴るようす

⇒ 快哉を叫ぶ、昂っている ※「spring」は「giang」を強調し、直訳すれば・・・気持ちはめちゃくちゃ高鳴っている

その後、『わがまま歩き台湾』という旅行ガイドのライターの1人となる機会があり、台湾に何度か行き、日本語からの外来語など、台湾で使われている独特な表現に触れる機会がありました。

*アーターマーコンクリー ⇒ 頭コンクリート ⇒ 頭が固い、融通がきかないの意

- *運將 ⇒ ウンチャンと発音。運ちゃん、運転手の意
- *輸輸去桑 ⇒ ススキサンと発音。鈴木さん
- *紅豆 ⇒ ホントウと発音。本当の意
- *沙カリバ ⇒ サカリバと発音。盛り場の意
- *歐巴桑 ⇒ オバサンと発音。おばさん
- *歐吉桑 ⇒ オヂサンと発音。おじさん
- *ライジョウブ ⇒ 大丈夫の意。

※台湾人はダ行がラ行のように転化しやすい

台湾では、戦後の台湾でいわれる「國語（中国語）」のほか、台湾語や日本語（からの外来語）も広く使われ、さらに客家語も広く使われています。2言語の「バイリンガル」、3言語の「トライリンガル」を超えて、主に使われているのが4言語もあるという「クアドリリンガル文化」といえます。

【05】二本松の出会い

2003年、友人（新聞記者）の誘いでタイヤル族の村（苗栗県泰安郷天狗村／同県「二本松」の近く）を訪ねることになりましたが、途中崖崩れに遭遇し、往く手を遮られました。すると、訪問するはずだった柯正信（タイヤル名：タリ・カギ）氏から流暢な日本語の手紙が来ました。「拝啓 山での遭難誠に申し譯け御在いません（下略）」と。

この手紙からタイヤルへの関心をより高めた私は、ほどなくタリ・カギ氏と面会。

このタリ・カギ氏は『山の戦士タイヤル』という、タイヤルの歴史と文化を縦横に日本語で口述した著作（中国語版の書名は『高砂王國』）があります。この著作を通じて、さらにタイヤルへの関心を高め、2003年10月31日から、アタヤル語（タイヤル語）のその地で使われている方言のフィールドワークを始めます。

タイヤル族は、台湾の北部から中部にかけていくつもの集落で暮らしていますが、これらのタイヤル族が話すアタヤル語は、一つの統一的な言語というより、複数の方言から成っています。私がフィールドワークを始めたアタヤル語は、日本語とは語順がまったく違う言語でした。

*Ini kava kamayal kaa`i Atayal kanayril=mu.

日本語訳（うちの妻はタイヤル語が話せない）

Ini（否定）、kava（可能）、kamayal（話す）、kaa`i（言葉）、Atayal（アタヤル=タイヤル）、kanayril=mu.（妻=私の）

【06】イツ、ウメヲ、ツミニキマスカ

それから私は、何度もタイヤル族の天狗村を訪ね、梅の実の収穫など、彼らの仕事を手伝ったりしながら村に滞在して、アタヤル語の収集に努めました。

そうして、アタヤル語で話しかけられるようにもなりました。

Kanuwan ga pakahol=su mamu vuoho

日本語訳（イツ、ウメヲ、ツミニキマスカ）

【07】さらに発展する多言語文化

アタヤル語など台湾「原住民」諸語は、広くはアウストロネシア語（オーストロネシア語）または「南島語」に属しています。このアウストロネシア語は、一つの祖語から長い時間をかけて広い範囲で分岐し、いまは1000前後の言語から成っています。この広がり、台湾から東南アジア島嶼部、太平洋に浮かぶ数々の島へというもので、西はマダガスカル、東はイースター島、南はニュージーランドという壮大な範囲であり、そこに住む人びと（アウストロネシア語族／南島語族）に使われています。

そしてアウストロネシア語は、台湾を原郷として広がったものと考えられています。

台湾の多言語文化は、中国語、台湾語、客家語というだけでなく、台湾「原住民」諸語の「アウストロネシア語」を考えると、重層的で大きな広がりをもったものといえます。

また、「日本統治時代」を経た台湾では、「宜蘭クレオール」とも呼ばれる日本語の影響の濃い言語も存在しています。

これは宜蘭県の金洋村など計4つの村で話されているもので、アタヤル語と日本語とが混じり合っ、（今日では中国語の影響も受けつつ）いまも話されています。

これはアタヤル語をベースに、日本語の語彙が多く取り入れられた「クレオール言語」と考えられたり、文法も日本語の要素が多く、一般的な「クレオール言語」とは異なるものとも言われたりする興味深いものです。

下記の「毎日新聞」のYouTubeチャンネルでその言語に触れることができます。

<https://www.youtube.com/watch?v=xNd7d951NGo&t=18s>

★進む法整備と課題解決の動き

多言語社会の台湾では、言語を一つにしていくのではなく、多言語社会を維持するような法整備と、多言語であることで生じる問題を解決していくような動きがみられます。

▼原住民語などに関して

2000年以降 郷土（本土）言語教育（2022年以降小中必修、高選択）

2014年 原住民族語言能力認證測驗開始

2017年 原住民族語言發展法施行、原住民語と客家語が国家言語に加わる

2019年 国家言語發展法（国・英・郷土・新住民・台湾手話）施行

2019年 新住民言語（東南アジア諸言語、小必修、中高選択）

▼広く使われてきた言語の表記などに関して

国語（中国語） 注音字母（ポポモフォ）、

ウェード式ローマ字（高雄 Kaohsiung）

台湾語 教会ローマ字（白話字）

1998年 教育部が「臺灣語言音標」（TLPA）を採用

2002年 通用拼音（中央研究院）を公式に採用（国台客に対応）

2006年 臺灣閩南語羅馬字拼音方案／臺羅／TLJを教育部が採用

2008年 漢語拼音の使用を行政院が決定

2008年 臺灣客家語拼音方案（教育部）

※現在「国語」以外の言語による小説、通信教育、教材なども増えてきています。

★一方、日本語と広東語では法整備が遅れていることを指摘しておきたい。

▼日本におけるUNESCO指定の消滅危機言語

アイヌ語 / 八重山方言 / 与那国方言 / 八丈方言 / 奄美方言 /
国頭方言 / 沖縄方言 / 宮古方言

※国家言語として法的指定がなされておらず、公的教育における位置を確保できていない。

▼広東語

*ローマ字表記が不統一

（Yale式、粵式、教育学院式、シドニー・ラウ式、廣州話拼音方案、
千島式、東方書店式など）

*教育制度としては、文語体では広東語が中国語に吸収されている。

——などの問題がある。

★台湾の街を歩けば、その多言語社会がりがうかがえるような看板などが多く見られて興味深い。台湾の街歩きの楽しみではなかろうか。

【08】終わりに

★ご清聴ありがとうございました。

*謝謝您的聆聽（國語／中国語）

*Chin to-siā!（台湾語）

*Mahuway=sami!（アタヤル語）